

熊本県におけるヤングケアラーの実態に関する調査概要

○ 調査の目的

本県におけるヤングケアラーの実態を把握し、具体的な支援策に活かす。

○ 調査の対象、方法等

1 調査対象者

対象者	対象校（者）数	回収数	回収率
小学校	336校	263校	78.3%
小学6年生	16,461人	5,407人	32.8%
大学3年生	5,756人	255人	4.4%

2 実施方法

Web調査

3 実施時期

令和4年9月30日～令和4年11月18日

本調査におけるヤングケアラーの定義

本調査における「ヤングケアラー」とは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」をいう。

(ヤングケアラーのイメージ (例))



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている

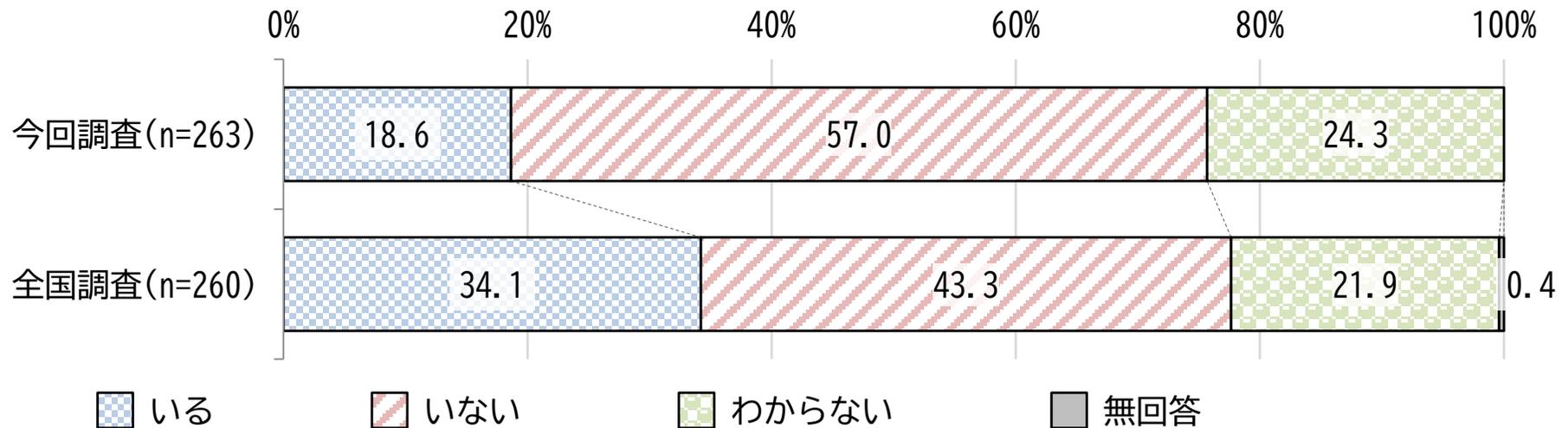


障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

小学校調査結果(ヤングケアラーの有無)

○学校に対し、ヤングケアラーの定義（2ページ参照）に該当すると思われる子どもの有無について質問。

○ヤングケアラーが「いる」と回答した割合は、**18.6%**（国：34.1%）となっており、全国調査より**15.5ポイント**低くなっている。

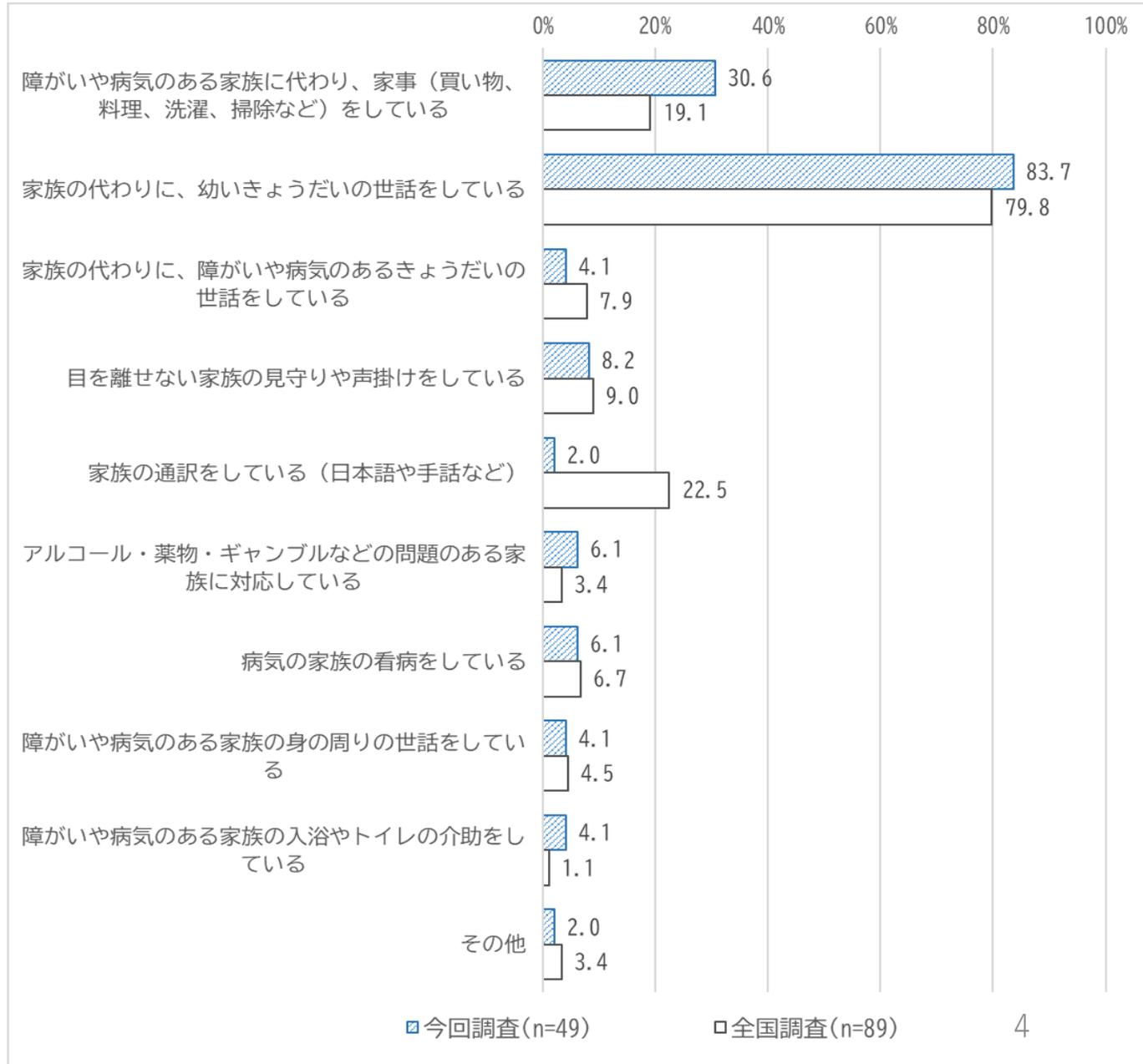


小学校調査結果(子どもの状況)

○ヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と回答した学校に、**子どもの状況**について質問（複数回答）。

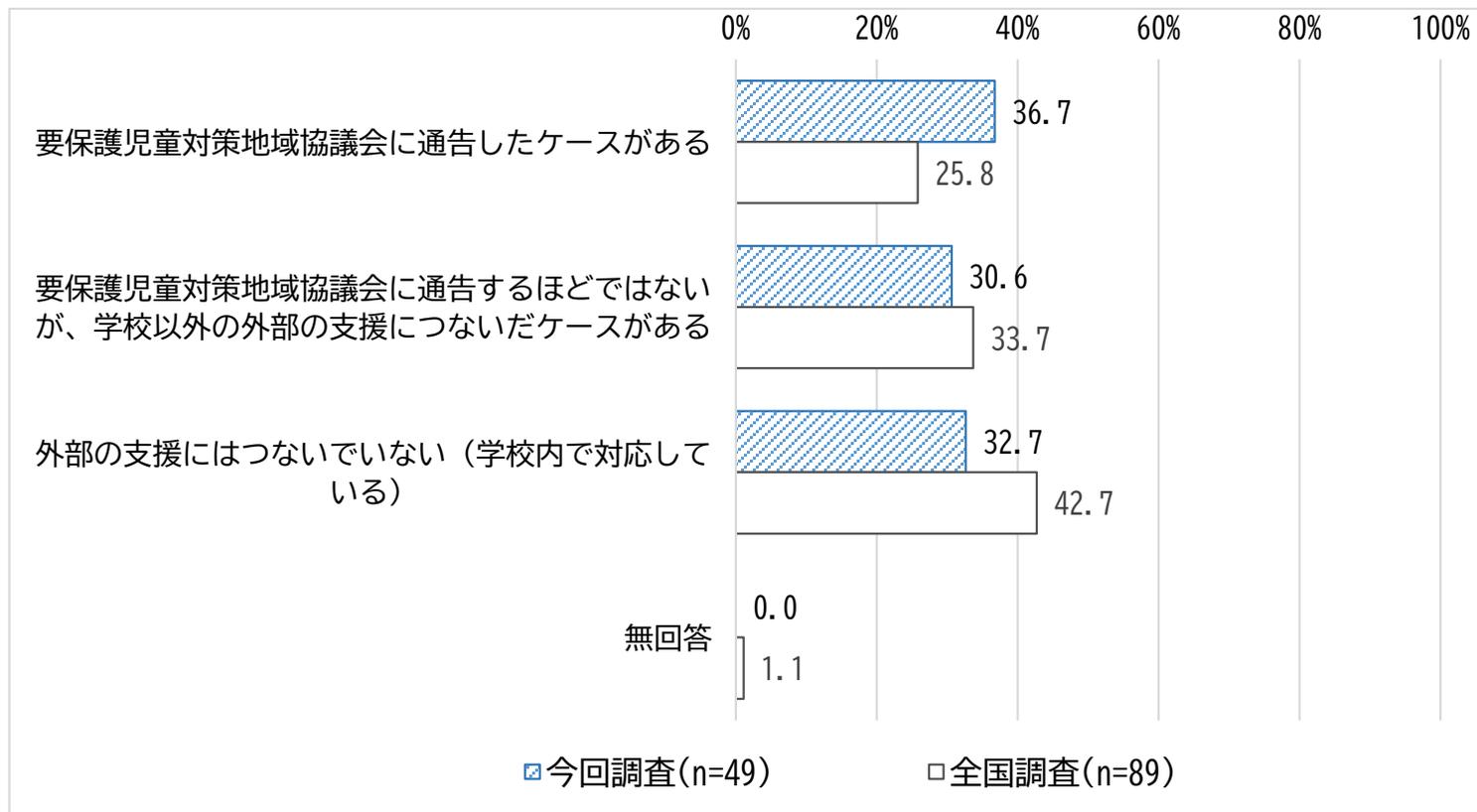
○「**家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている**」が**83.7%**（国：79.8%）と最も高くなっている。

○次いで「**障がいや病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている**」が**30.6%**（国：19.1%）と全国調査より**11.5ポイント**高くなっている。



小学校調査結果(外部との連携)

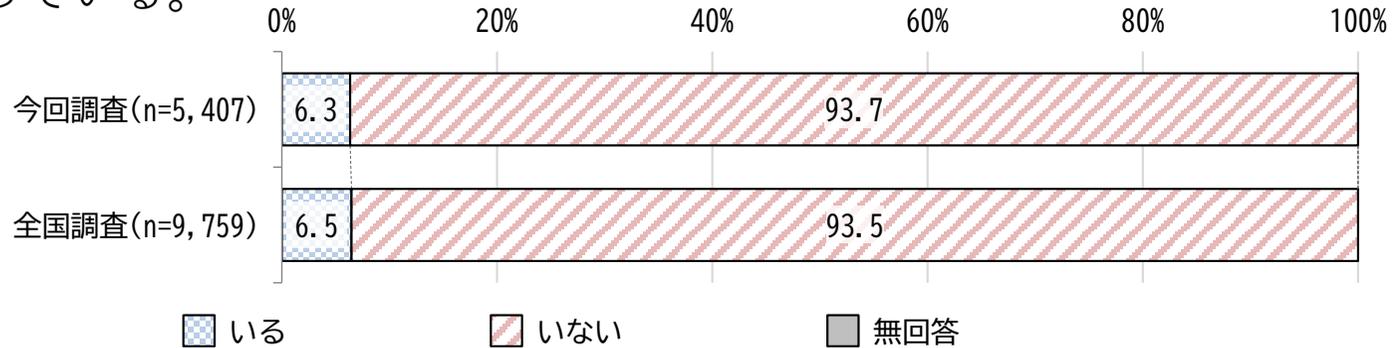
- ヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と回答した学校に、**当該子どもを学校以外の外部の支援につないだケースがあるか**質問（複数回答）。
- 「**要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある**」が**36.7%**（国：25.8%）と最も高く、全国調査より**10.9ポイント**高くなっている。
- 次いで「**外部の支援にはつないでいない（学校内で対応している）**」は、**32.7%**（国：42.7%）と全国調査より**10.0ポイント**低くなっている。



小学6年生調査結果(世話をしている家族の有無)

○小学6年生に対し、**世話をしている家族の有無**について質問。

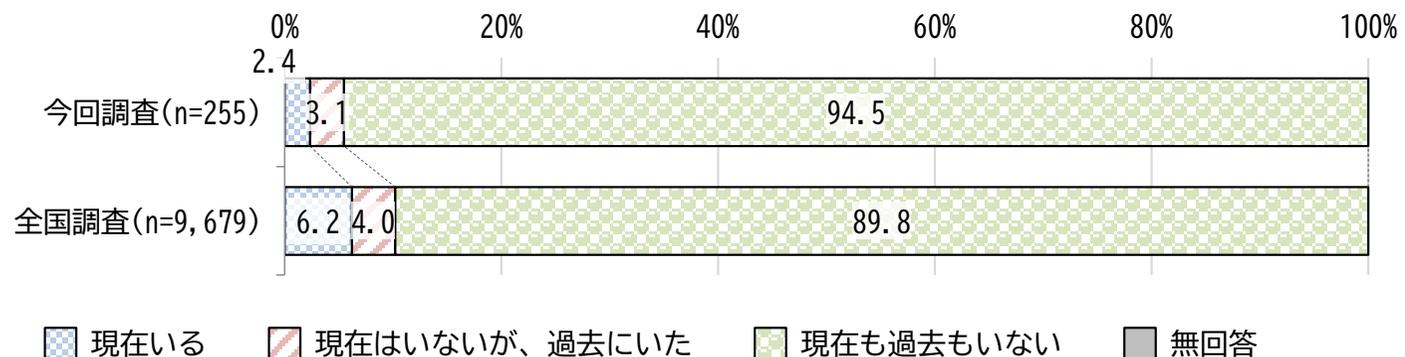
○世話をしている家族が「**いる**」と回答したのは、**6.3%** (国：6.5%) であり、全国調査と同様の結果となっている。



大学3年生調査結果(世話をしている家族の有無)

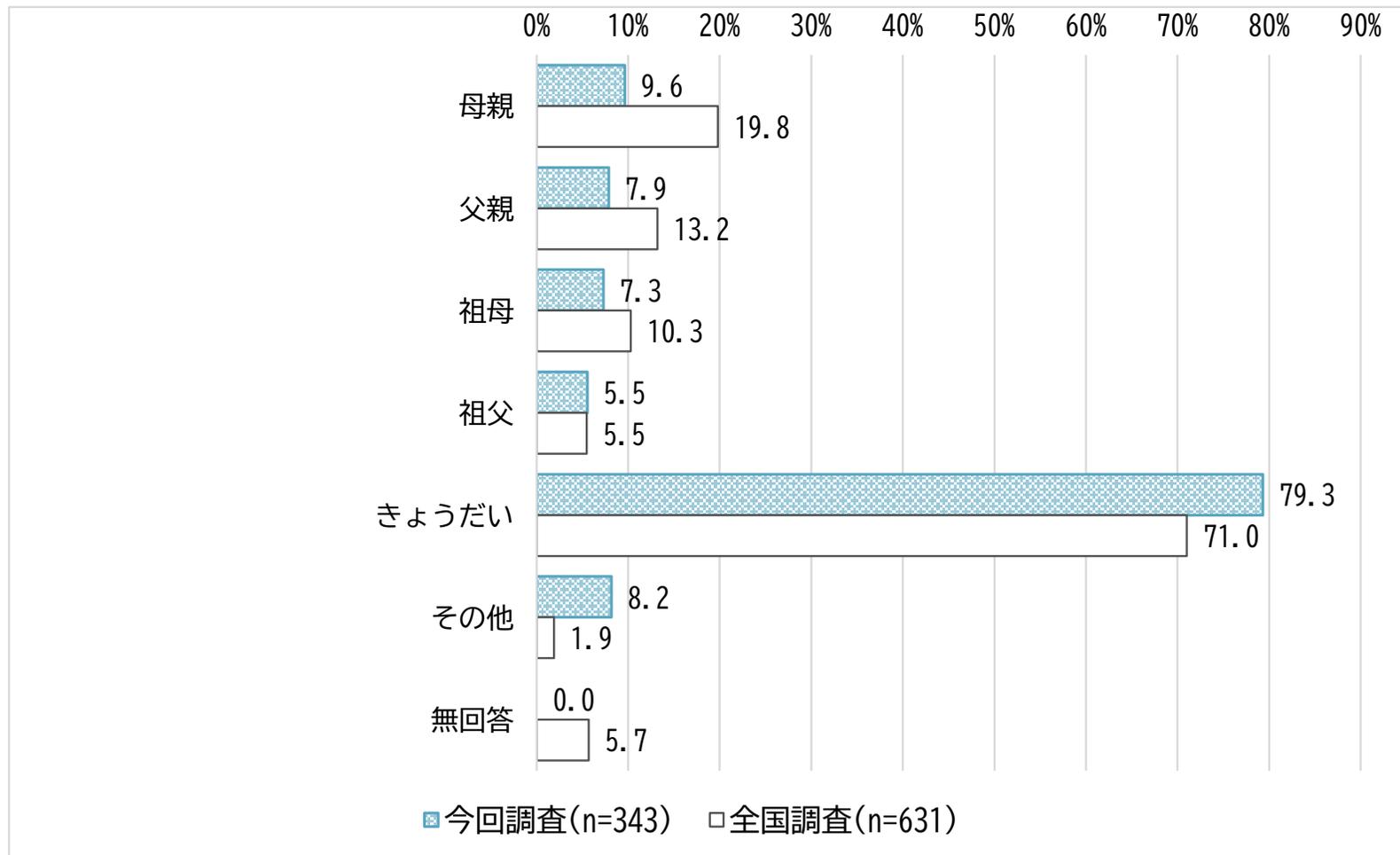
○大学3年生に対し、**世話をしている家族の有無**について質問。

○世話をしている家族が「**現在いる**」と回答したのは、**2.4%** (国：6.2%) であり、全国調査より**3.8ポイント**低くなっている。



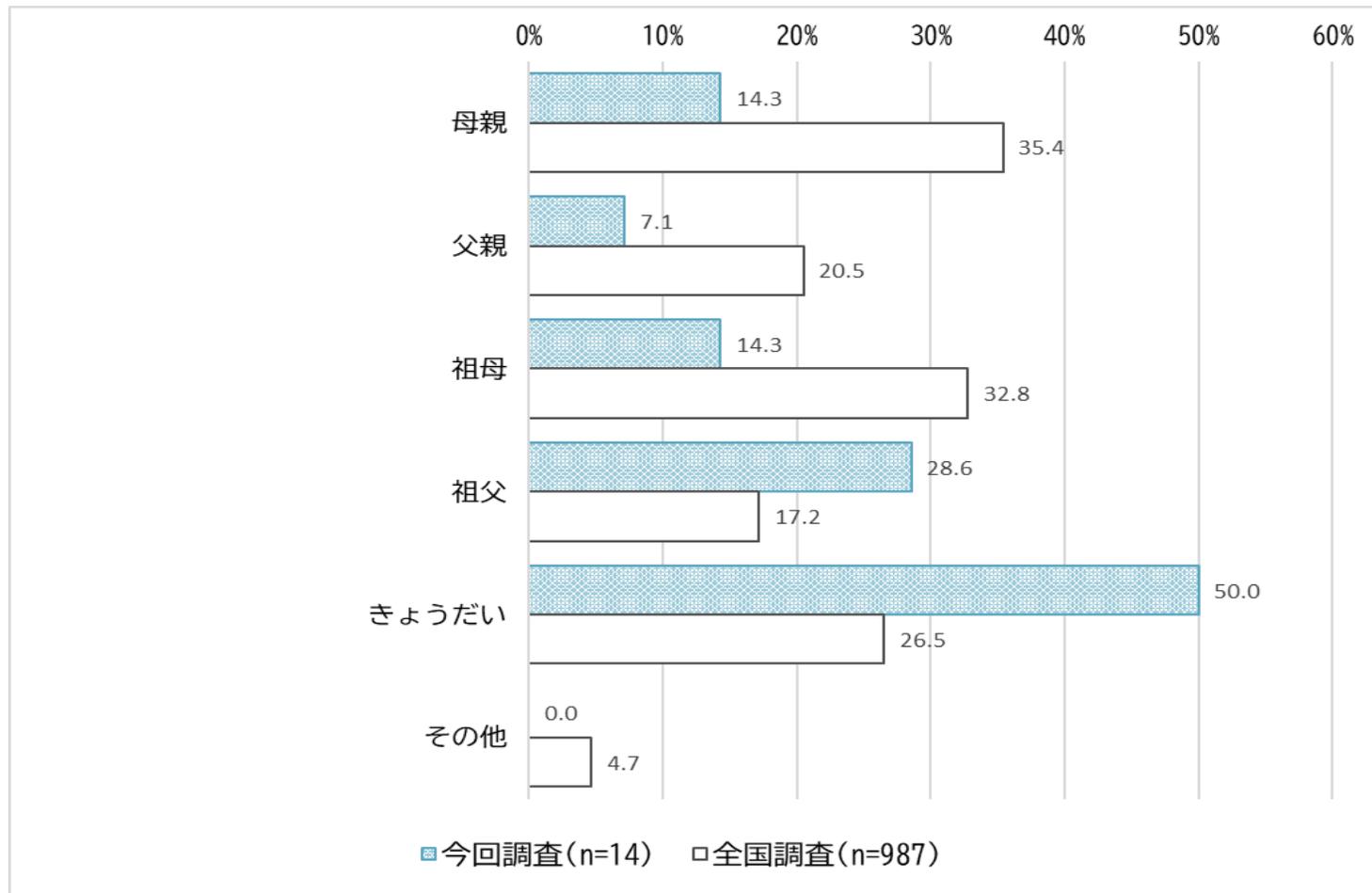
小学6年生調査結果（世話を必要としている家族）

- 世話をしている家族が「いる」と回答した小学6年生に、**世話を必要としている家族**について質問（複数回答）。
- 世話を必要としている家族が「**きょうだい**」と回答したのは、**79.3%**（国：71.0%）と、全国の調査より**8.3ポイント**高くなっている。



大学3年生調査結果（世話を必要としている家族）

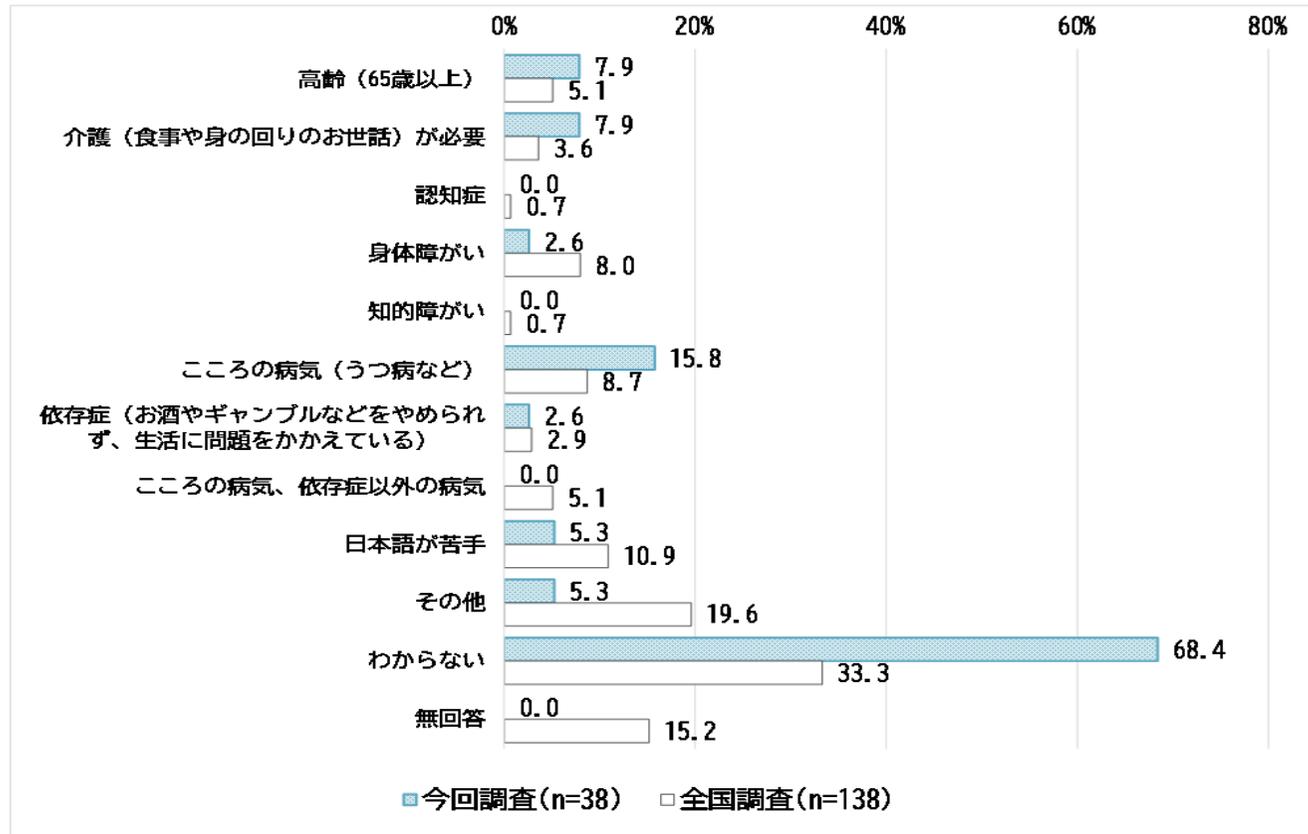
- 世話をしている家族が「いる」と回答した大学3年生に、**世話を必要としている家族**について質問（複数回答）。
- 世話を必要としている家族が「**きょうだい**」と回答したのは、**50.0%**（国：26.5%）と、全国の調査より**23.5ポイント**高くなっている。



小学6年生調査結果（世話を必要とする父母の状況）

○世話を必要としている家族として「**父母**」と回答した小学6年生に、**父母の状況**を質問（複数回答）。

○「**わからない**」が**68.4%**（国：33.3%）と最も高くなっており、次いで「**こころの病気（うつ病など）**」は**15.8%**（国：8.7%）と全国調査より**7.1ポイント**高くなっている。

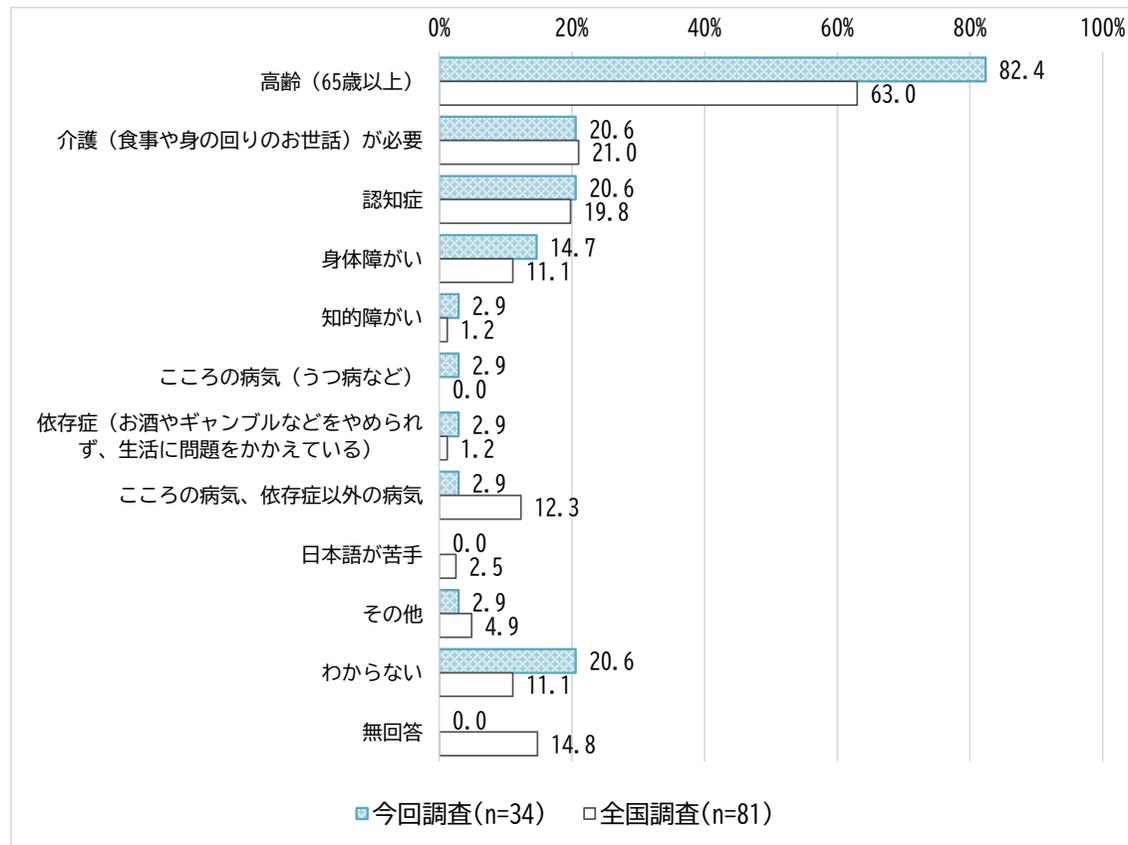


※大学3年生は対象が少ないため、掲載していない。

小学6年生調査結果(世話を必要とする祖父母の状況)

○世話を必要としている家族として「**祖父母**」と回答した小学6年生に、**祖父母**の状況を質問(複数回答)。

○「**高齢(65歳以上)**」が**82.4%**(国:63.0%)と最も高くなっており、全国調査より**19.4ポイント**高くなっている。

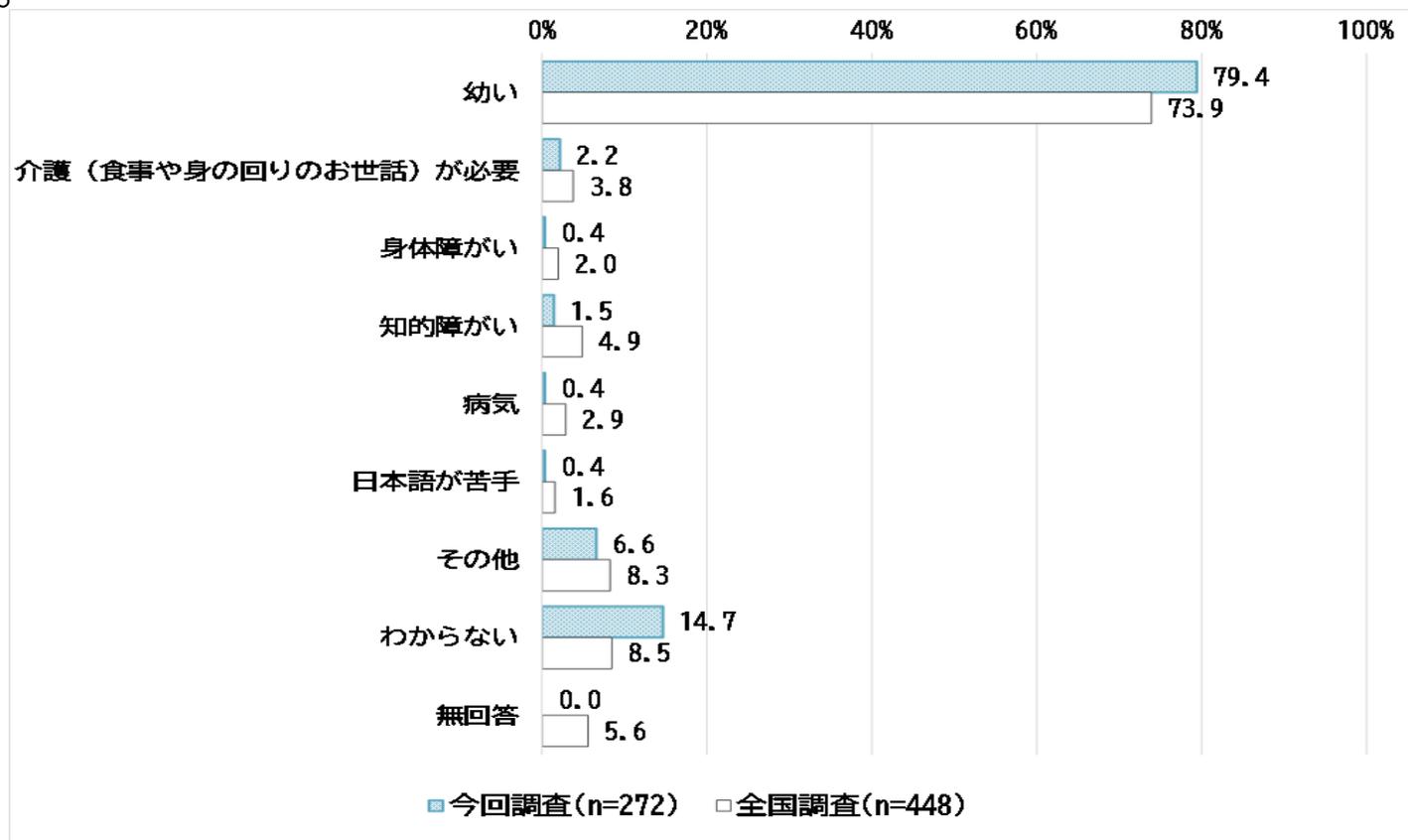


※大学3年生は対象が少ないため、掲載していない。

小学6年生調査結果(世話を必要とするきょうだいの状況)

○世話を必要としている家族として「きょうだい」と回答した小学6年生に、きょうだいの状況を質問（複数回答）。

○「**若い**」が**79.4%**（国：73.9%）と最も高くなっており、また全国調査より**5.5ポイント**高くなっている。



※大学3年生は対象が少ないため、掲載していない。

小学6年生調査結果(世話の内容)

- 家族を世話していると回答した小学6年生に、**世話の内容**について質問（複数回答）。
- 「父母のみ」の場合、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が最も高く、それ以外では「見守り」の割合が最も高くなっている。

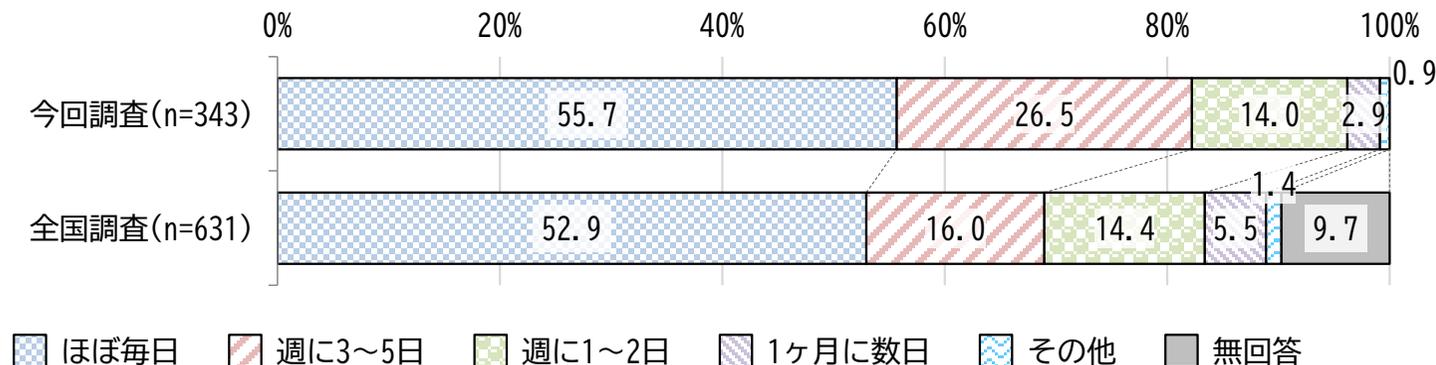
(%)

		調査数 (n=)	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいのお世話や送りむかえ	入浴やトイレのお世話	買い物や散歩に一緒に行く	病院へ一緒に行く	話を聞く	見守り	通訳（日本語や手話など）	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
熊本県	父母のみ	22	54.5	13.6	9.1	31.8	9.1	27.3	13.6	4.5	4.5	13.6	0.0	0.0
	祖父母のみ	20	30.0	0.0	20.0	20.0	5.0	35.0	40.0	5.0	5.0	5.0	5.0	0.0
	きょうだいのみ (幼いのみ)	196	28.6	27.0	37.8	13.8	0.0	23.0	71.9	1.0	1.0	0.5	4.6	0.0
	きょうだいのみ (上記以外)	57	33.3	36.8	19.3	21.1	1.8	31.6	57.9	3.5	0.0	1.8	10.5	0.0
	複数人	48	37.5	16.7	16.7	22.9	6.3	20.8	47.9	4.2	2.1	4.2	22.9	0.0
全国	父母のみ	74	50.0	6.8	8.1	18.9	13.5	17.6	8.1	6.8	8.1	6.8	2.7	18.9
	祖父母のみ	52	36.5	0.0	5.8	30.8	3.8	48.1	44.2	1.9	1.9	13.5	3.8	9.6
	きょうだいのみ (幼いのみ)	281	27.0	42.0	26.7	12.8	0.4	20.6	53.0	0.4	0.0	0.0	5.3	7.8
	きょうだいのみ (上記以外)	95	30.5	36.8	23.2	17.9	3.2	32.6	49.5	3.2	4.2	2.1	10.5	6.3
	複数人	70	60.0	22.9	10.0	28.6	10.0	31.4	20.0	11.4	4.3	7.1	2.9	17.1

※大学3年生は対象が少ないため、掲載していない。

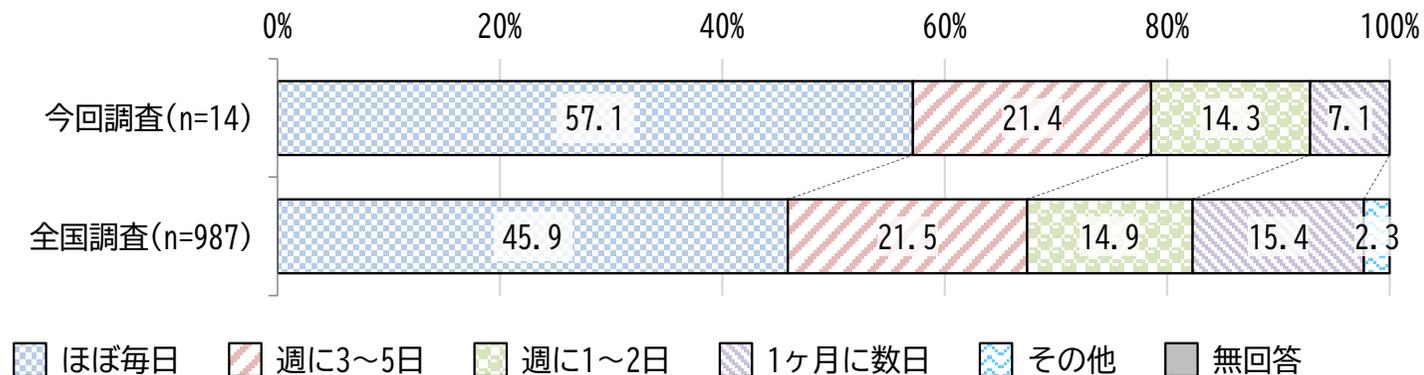
小学6年生調査結果(世話の頻度)

- 世話をしている家族が「いる」と回答した小学6年生に、その**頻度**について質問。
- 国の調査と同様「**ほぼ毎日**」が最も高く、**55.7%**（国：52.9%）となっている。次いで「**週に3～5日**」が**26.5%**（国：16.0%）と全国調査より**10.5ポイント**高くなっている。



大学3年生調査結果(世話の頻度)

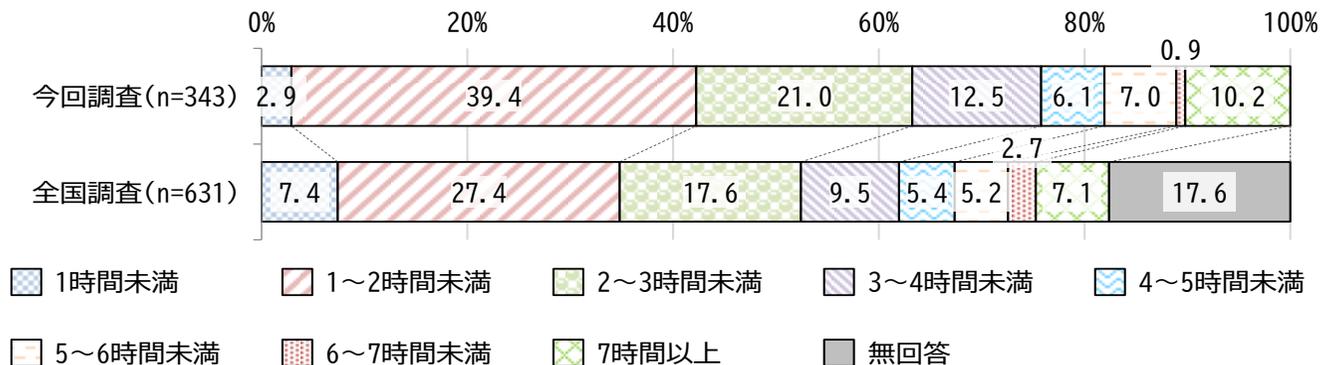
- 世話をしている家族が「いる」と回答した大学3年生に、その**頻度**について質問。
- 国の調査と同様「**ほぼ毎日**」が最も高く、**57.1%**（国：45.9%）となっており、全国調査より**11.2ポイント**高くなっている。



小学6年生調査結果(平日の世話の時間)

○世話をしている家族が「いる」と回答した小学6年生に、平日1日あたりに世話に費やす時間について質問。

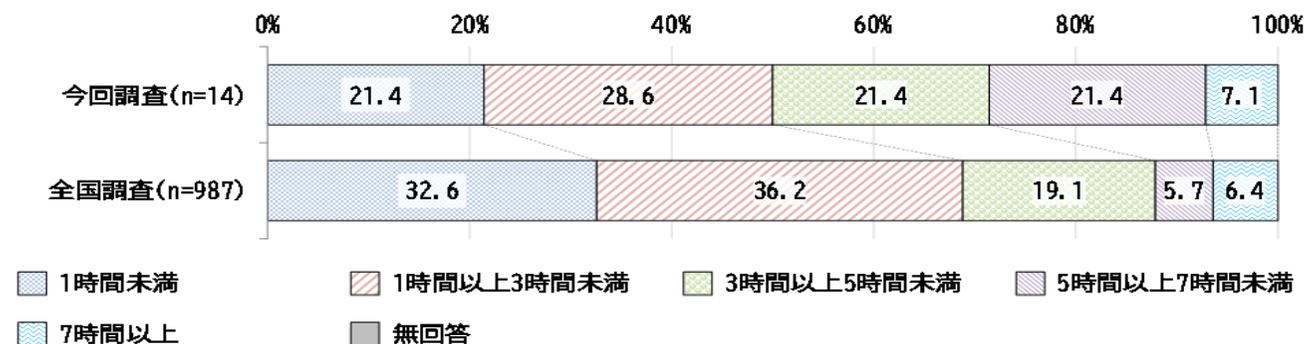
○1～2時間未満が**39.4%** (国：27.4%) と最も高く、全国調査より**12ポイント**高くなっている。



大学3年生調査結果(平日の世話の時間)

○世話をしている家族が「いる」と回答した大学3年生に、平日1日あたりに世話に費やす時間について質問。

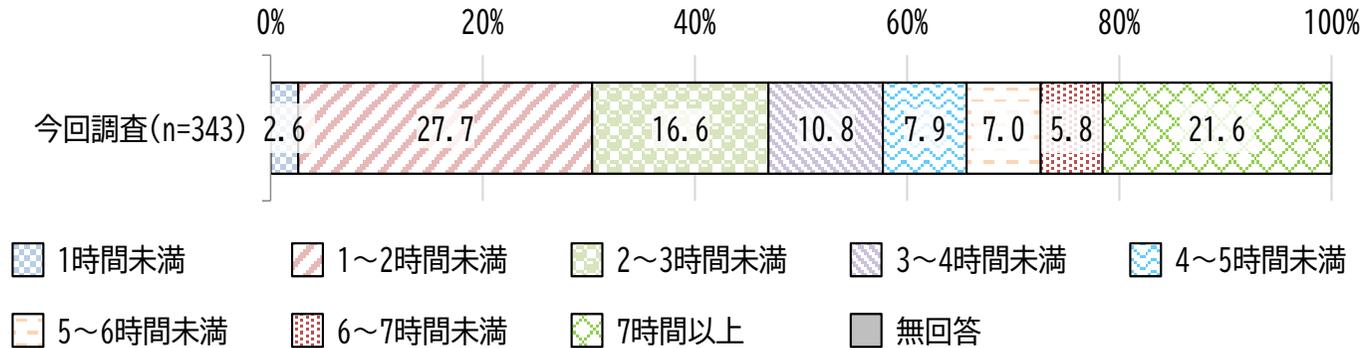
○1時間以上3時間未満が**28.6%** (国：36.2%) と最も高くなっており、5時間以上は全国調査より**16.4ポイント**高くなっている。



小学6年生調査結果(休日の世話の時間)

○世話をしている家族が「いる」と回答した小学6年生に、休日1日あたりに世話に費やす時間について質問。【県独自設問】

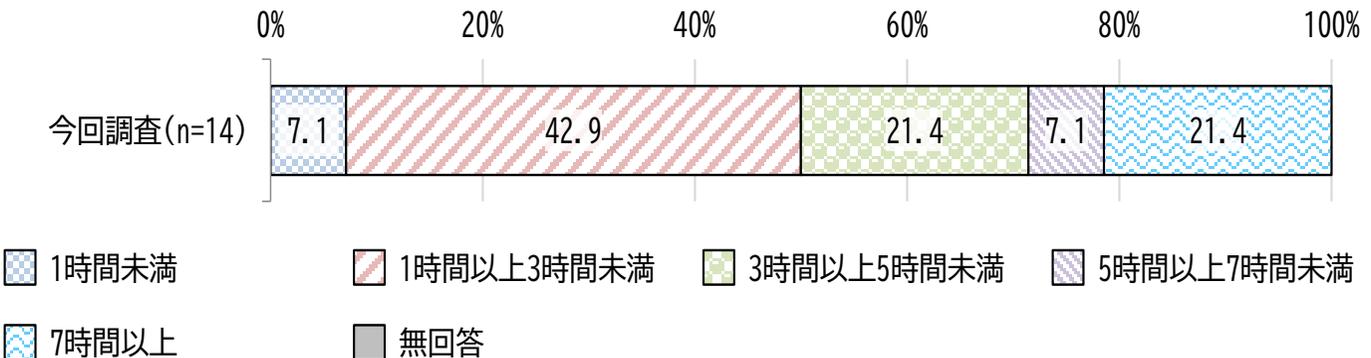
○1～2時間未満が27.7%と最も高く、次いで7時間以上が21.6%となっている。



大学3年生調査結果(休日の世話の時間)

○世話をしている家族が「いる」と回答した大学3年生に、休日1日あたりに世話に費やす時間について質問。【県独自設問】

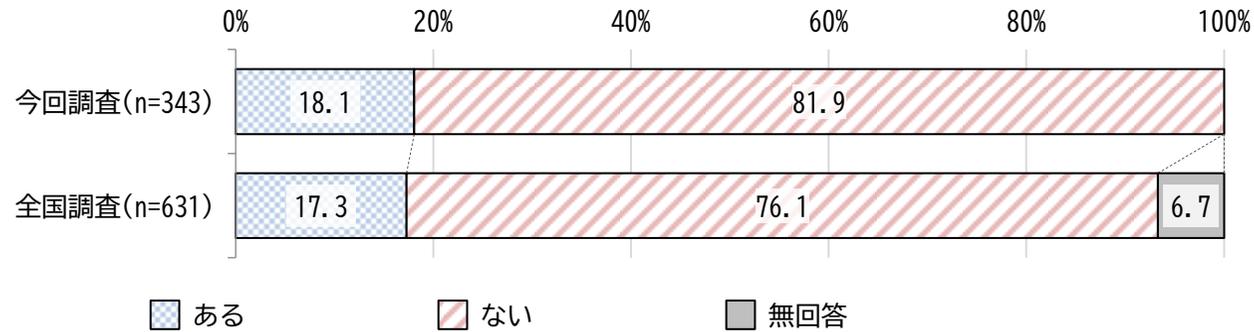
○1時間以上3時間未満が42.9%と最も高く、次いで3時間以上5時間未満、7時間以上が21.4%となっている。



小学6年生調査結果(相談経験)

○世話をしている家族が「いる」と回答した小学6年生に、世話について相談した経験の有無について質問。

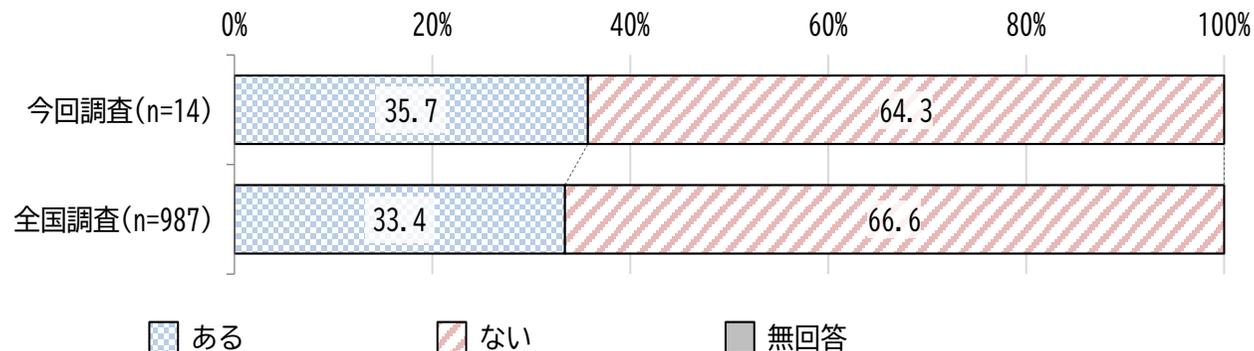
○相談した経験が「ない」が**81.9%** (国：76.1%) で国の調査より**5.8ポイント**高くなっている。



大学3年生調査結果(相談経験)

○世話をしている家族が「いる」と回答した大学3年生に、世話について相談した経験の有無について質問。

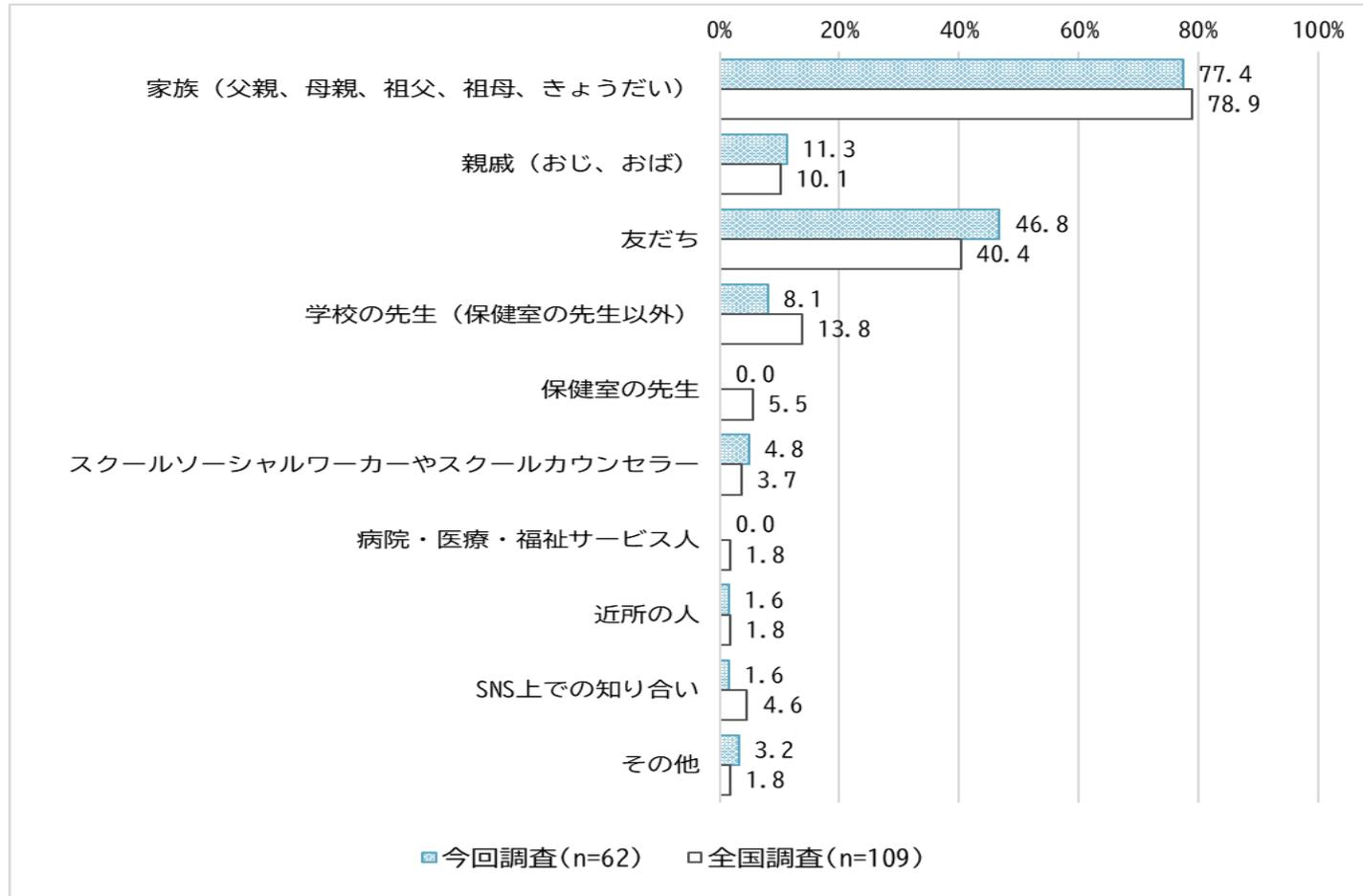
○相談した経験が「ない」が**64.3%** (国：66.6%) で全国調査と同様の結果となっている。



小学6年生調査結果(相談相手)

○世話について相談した経験が「ある」と回答した小学6年生に、**相談相手**について質問。

○国の調査と同様「**家族（父親、母親、祖父、祖母、きょうだい）**」が**77.4%**（国：**78.9%**）と最も高く、次いで「**友だち**」が**46.8%**と高くなっている。

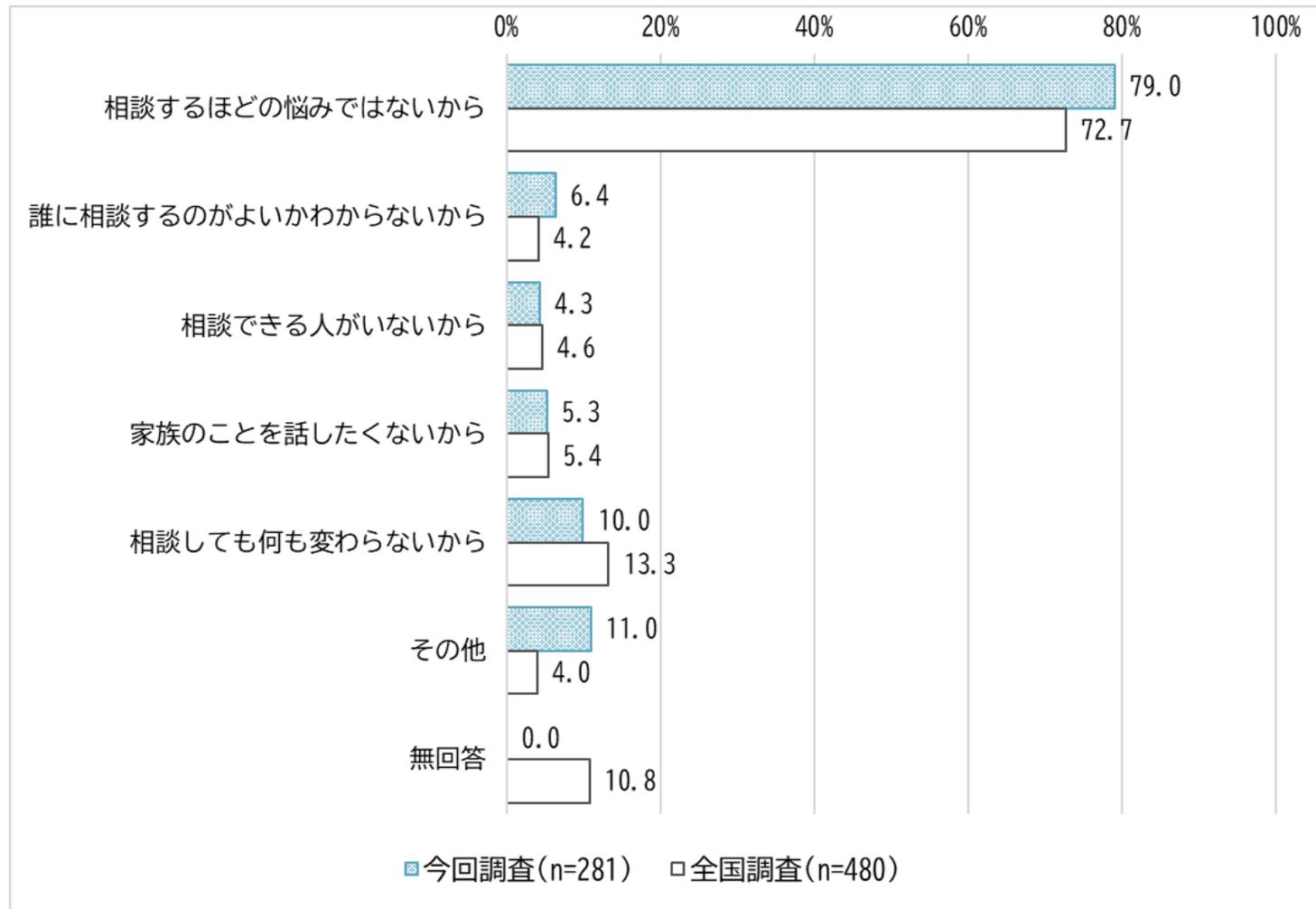


※大学3年生は対象が少ないため、掲載していない。

小学6年生調査結果（相談経験がない理由）

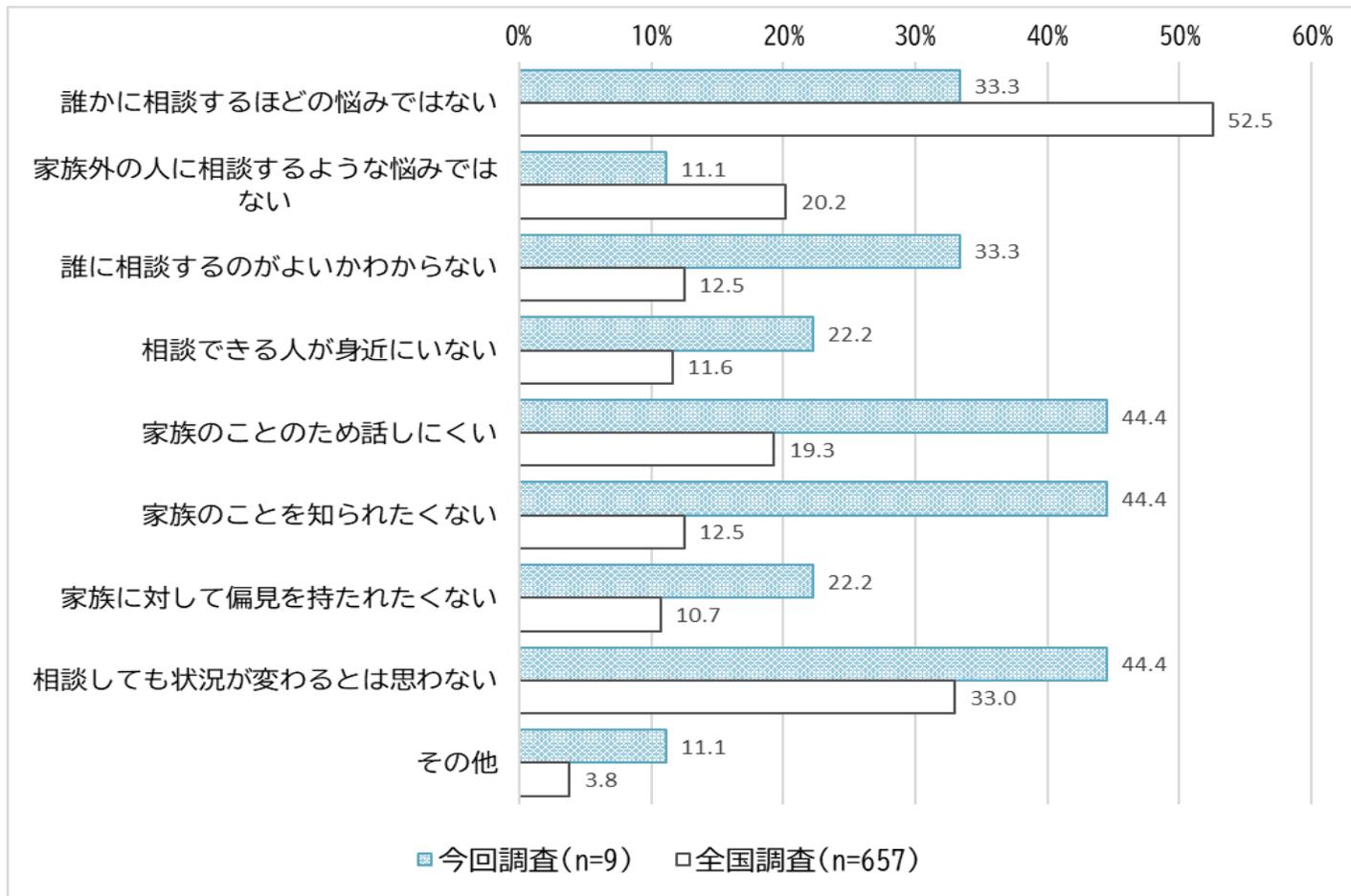
○世話について相談した経験が「ない」と回答した小学6年生に、その理由について質問。

○国の調査と同様、「誰かに相談するほどの悩みではない」が79.0%（国：72.7%）と最も高くなっている。



大学3年生調査結果(相談経験がない理由)

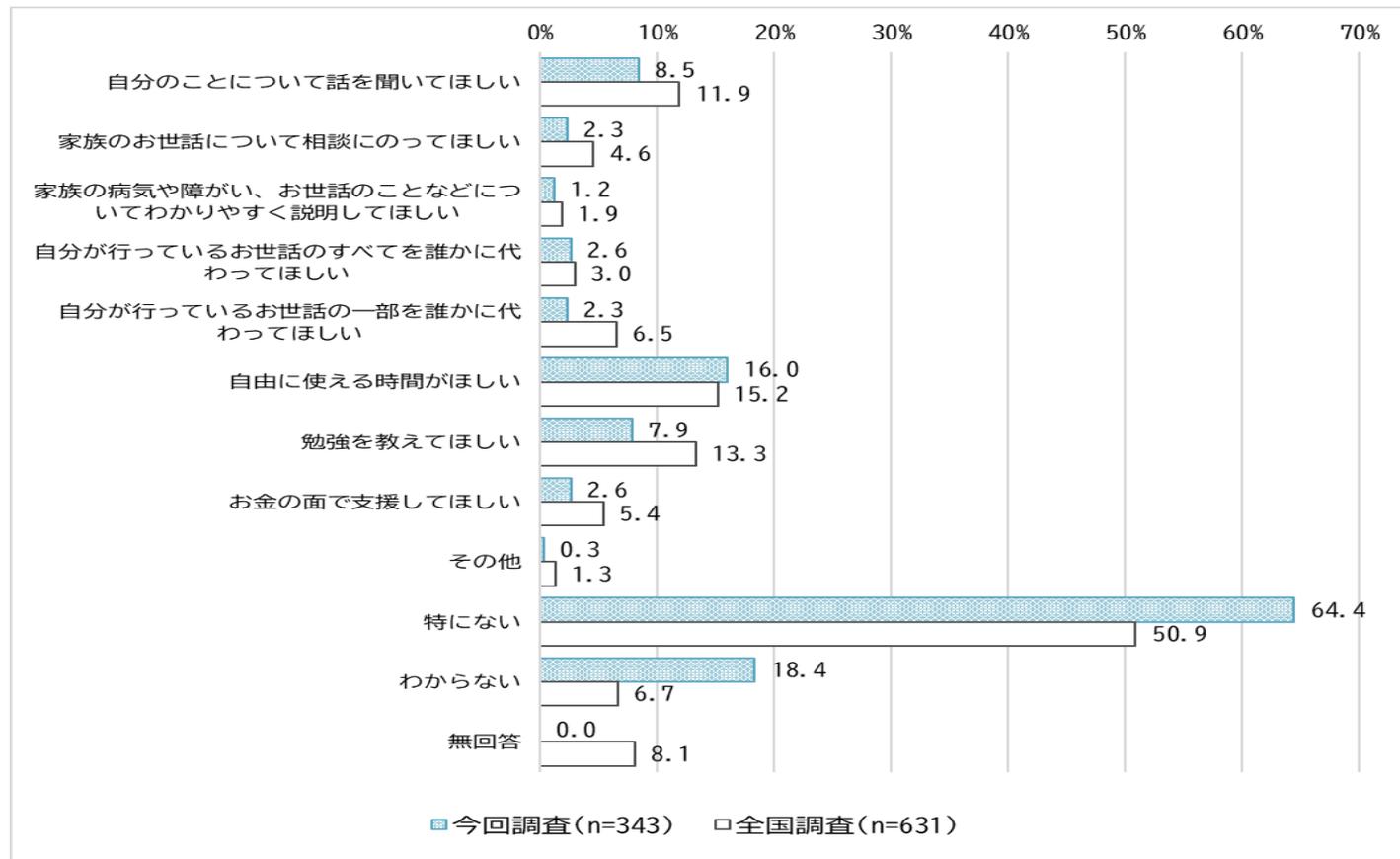
- 世話について相談した経験が「ない」と回答した大学3年生に、その理由について質問。
- 「家族のこのため話しにくい」「家族のことを知られたくない」「相談しても状況が変わると思わない」が44.4%と最も高くなっている。また、「誰かに相談するほどの悩みではない」は33.3%となっているが、全国調査では、52.5%と最も高くなっている。



小学6年生調査結果(必要な支援)

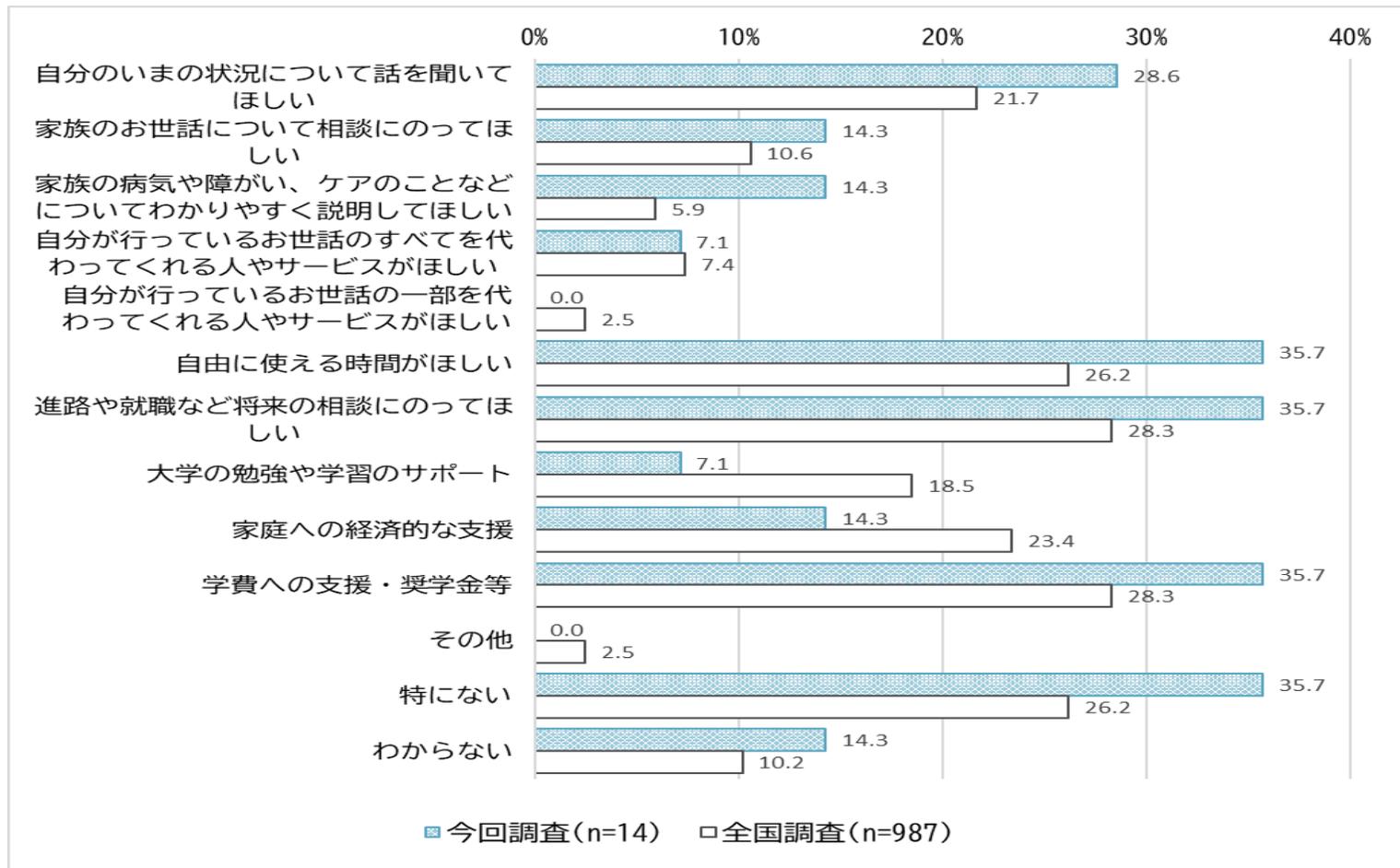
○世話をしている家族が「いる」と回答した小学6年生に、**学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援**について質問（複数回答）。

○国の調査と同様、「特にない」が**64.4%**（国：50.9%）と最も高く、全国調査より**13.5ポイント**高くなっている。その他では、「自由に使える時間がほしい」が**16.0%**（国：15.2%）、「自分のことについて話を聞いてほしい」が**8.5%**（国：11.9%）となっている。



大学3年生調査結果(必要な支援)

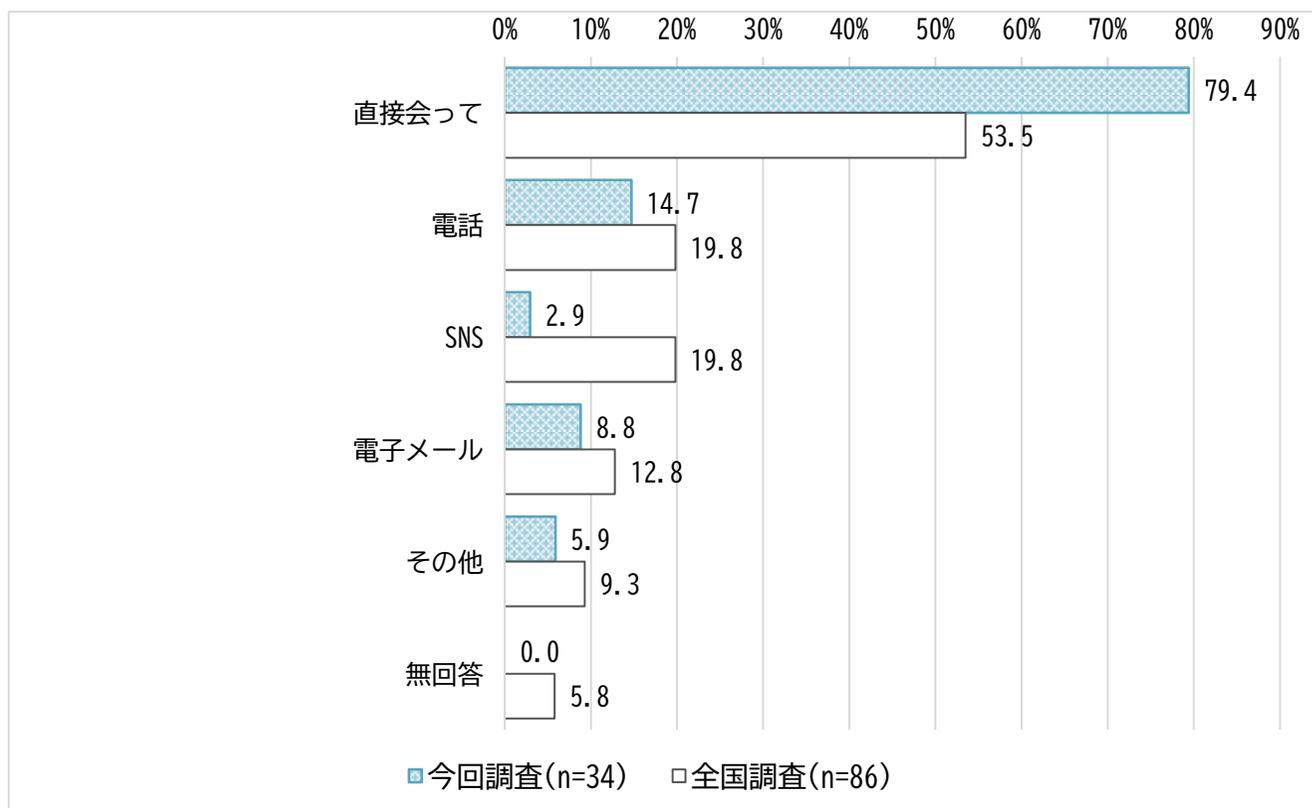
- 世話をしている家族が「いる」と回答した大学3年生に、**学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援**について質問（複数回答）。
- 「自由に使える時間がほしい」「進路や就職など将来の相談にのってほしい」「学費への支援・奨学金等」「特にない」が**35.7%**と最も高くなっている。



小学6年生調査結果(希望する相談方法)

○話を聞いてほしい、相談にのってほしいと回答した小学6年生に、**どんな方法で話や相談にのってほしいか**を質問（複数回答）。

○「**直接会って**」が最も高く、**79.4%**（国：53.5%）となっており、全国調査より**25.9ポイント**高くなっている。

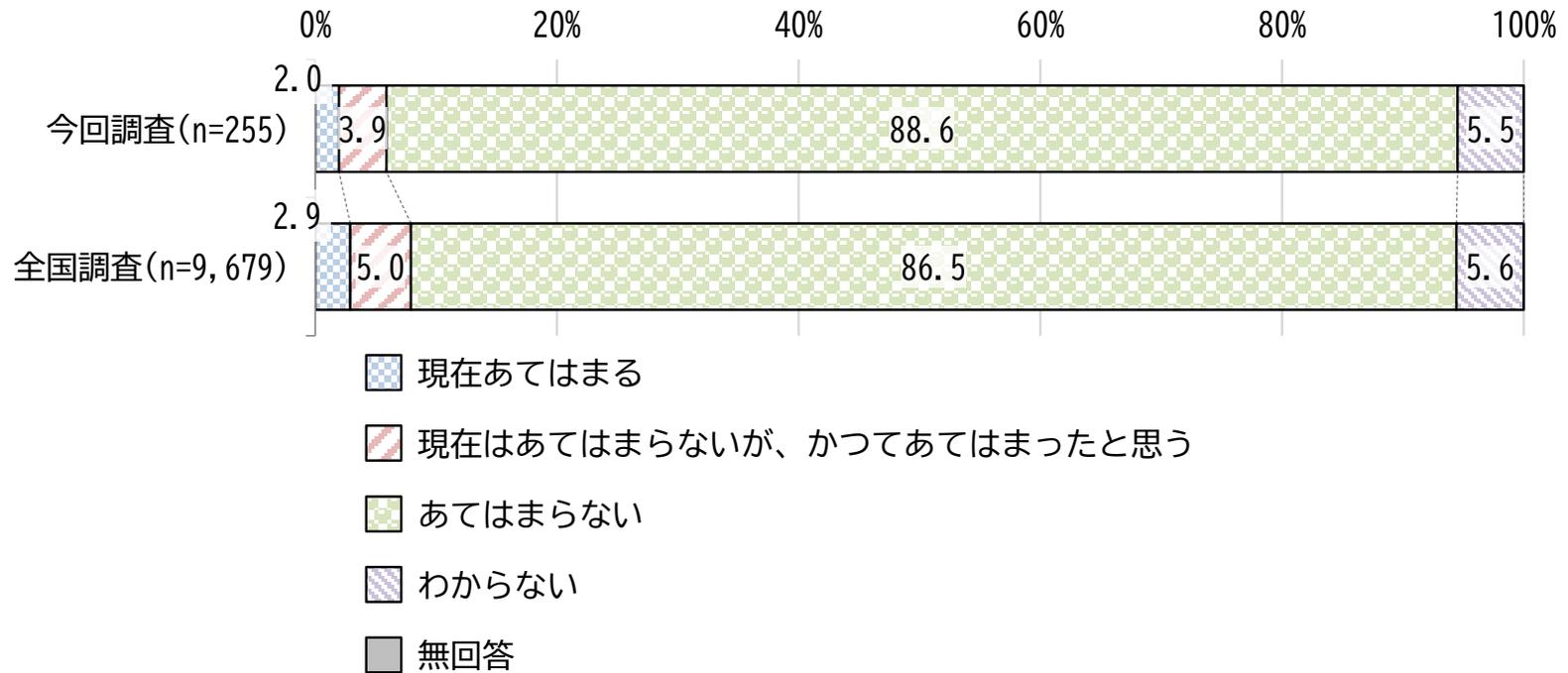


※大学3年生は対象が少ないため、掲載していない。

大学3年生調査結果(認識)

○大学3年生に対し、**自分がヤングケアラーにあてはまると思うか**について質問。

○「**現在あてはまる**」が**2.0%**（国：2.9%）、「**現在はあてはまらないが、かつてあてはまったと思う**」で**3.9%**（国：5.0%）と全国調査同様の結果となっている。



※小学6年生は同様の質問はない。

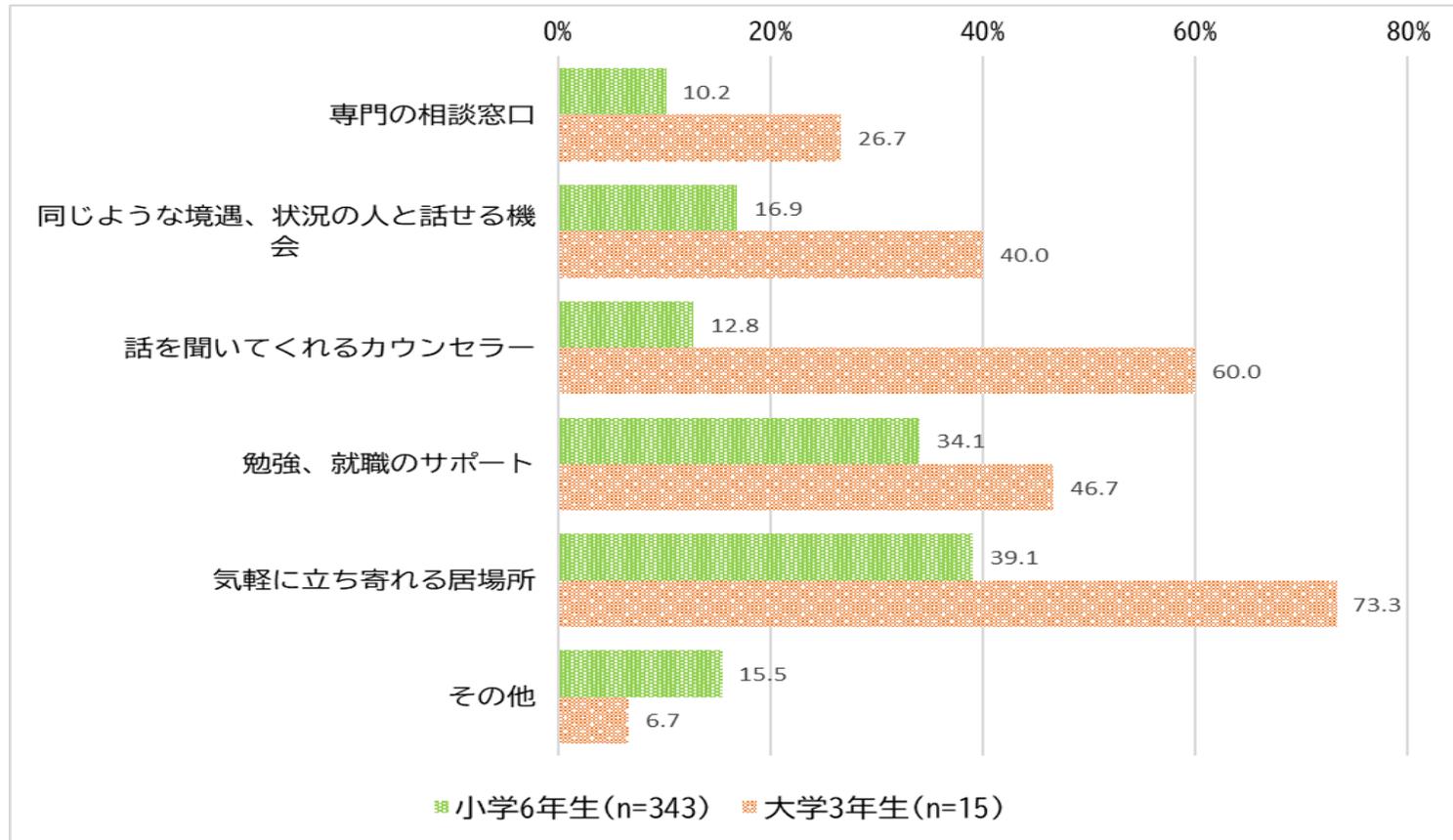
小学6年生・大学3年生調査結果(希望するサービス)

○小学6年生・大学3年生に対し、**どのようなサービスがあるといいと思うか**について質問。

【県独自設問】

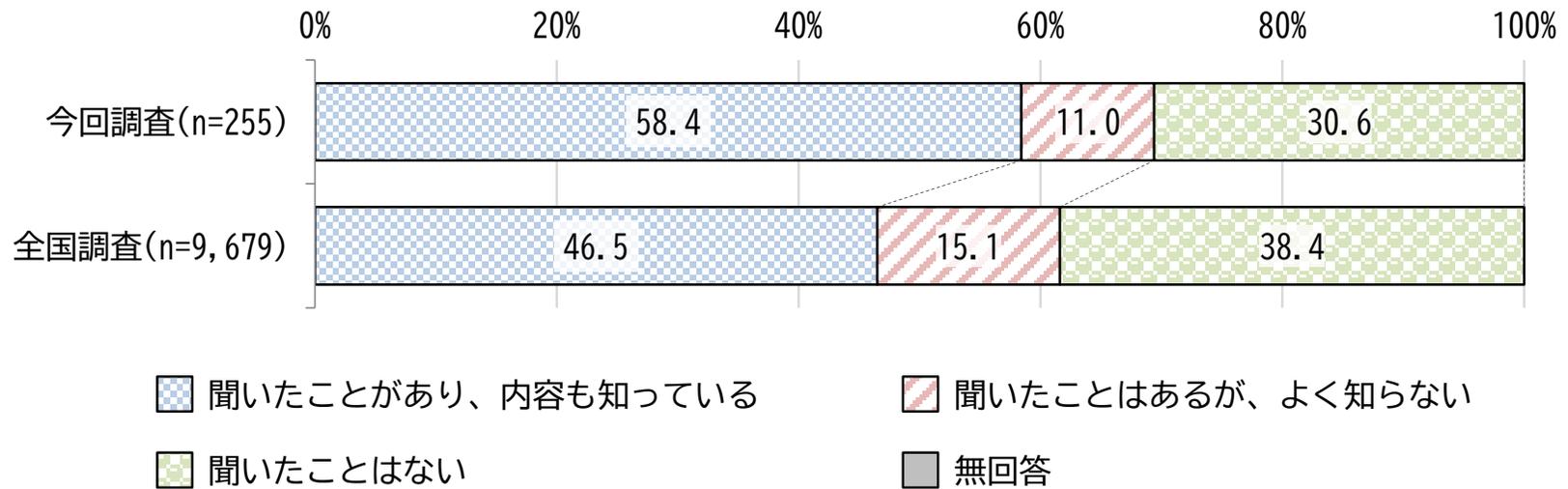
○「**気軽に立ち寄れる居場所**」が最も高く、小学6年生で**39.1%**、大学3年生で**73.3%**。

○次いで、小学生は「**勉強のサポート**」が**34.1%**、大学3年生は「**話を聞いてくれるカウンセラー**」が**60.0%**と高くなっている。



大学3年生調査結果(認知度)

- 大学3年生に対し、**ヤングケアラーの認知度**について質問。
- 「聞いたことがあり、内容も知っている」が**58.4%**（国：46.5%）と最も高く、全国調査より**11.9ポイント**高くなっている。
- 「聞いたことはあるが、よく知らない」「聞いたことはない」を合わせると41.6%（国：53.5%）となっている。



※小学6年生は同様の質問はない。